

BIOTOPE 技術者のためのビオトープ選集とその活用法

2015 追加募集<エントリー用紙>

例 1

1.会員名	株式会社 西日本科学技術研究所		会員 ・ BA	
2.連絡先*	株式会社 近自然技術研究所			
	471-0027	愛知県豊田市喜多町 4-56		
	電話	0565-63-5923	FAX	0565-63-5643
	担当者	川村淑子	e-mail	biotope@kinshizen.com
3.事業名	準用河川太田川			
4.事業主体	豊田市建設部河川課			
5.場所	準用河川太田川 (愛知県豊田市豊松町、大内町)			
6.規模	改修延長：約 700m			
7.完成年月	2000 年 3 月			
8.分類 (○で囲む)	公園 / 学校 / 企業 / 森(森林) / <u>河川</u> / 池(湿地) / その他()			
9-1. 整備に至る背景等	準用河川太田川は、圃場整備事業に伴い5分勾配のコンクリート護岸が計画されていた。徳川・松平氏の発祥の地に相応しいふるりの川とするため、空石積護岸や分散型落差工等を用いた自然な護岸・河床とし、また山付き部や既存樹木の保全を行った。			
9-2. 整備方針、配慮のポイント等	川が大きく湾曲している区域では、水衝部となる外岸の護岸を5分勾配の石積み護岸とし、護岸上部にVカットを施しヤナギ類やツタ類など自生種を植栽した(平面図1.jpg、標準断面図1.jpg、写真1-2.jpg：護岸のVカット)。直線区間では、川の流れが直線にならないよう、川幅が比較的広く確保できる箇所では本流の横にワンドを設置し(写真1-3.jpg：空石積み護岸とワンド)、落差工は巨石を分散して配置した分散型落差工とすることで、流れや水深に変化をもたせ、トロ場と平瀬を形成した。山付部や河岸の既存樹木、自然の岩盤をできるだけ保全する河道形態とした(図1-1.jpg：護岸の勾配を変化させ、流れを直線にしない)。			
9-3 整備効果、展開の仕方等	岸边にはネコヤナギ、セキショウなどの根張りをする植物やヨシが生育し良好な景観を形成している。ふるり的な景観が再生され川に近づきやすくなったことで、日常に「小川」という自然が取り戻せたと評価された。事業完了時より、地元住民で組織される「太田川水辺愛護会」において維持管理(除草、ゴミ拾い)が継続され、地域に愛される川になっている。			

エントリー用紙は**ワード又はエクセル形式**、写真や図は**JPEG形式**(できれば3035pixel×2150pixel以上)としてビオトープ選集・編集担当「biotope@kinshizen.com」に送信してください。

*「2.連絡先」は選集には掲載しませんが、事業内容やデータ等の確認の際に連絡することがあります。